

日時:2018年10月15日(月) 13:30-17:00

場所:日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

主催:日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会

後援:地球惑星科学連合, 地理学連携機構, 日本地理学会
東京地学協会

参加費:無料(事前登録は不要)

開催趣旨:サイバー空間(仮想的データ空間)とフィジカル空間(現実社会)が高度に融合した超スマート社会(Society 5.0)では、ビックデータ、リアルタイムデータ、オープンデータなど様々なデータを、地球的なレベルから身近な地域社会のレベルまで、社会の合意形成に留意しつつ統合する必要がある。GISなどの高度情報システムを学術の英知を基に活用することで安全・安心な社会を構築する有効な手段ともなる。本シンポジウムでは、地球人間圏科学に軸足を置き、データの集積、可視化、利用という観点から、社会との協働・協創を踏まえた議論を行いたい。

プログラム

13:30 -13:40 開会挨拶と趣旨説明

春山成子 (日本学術会議第三部会員、三重大大学生物資源学部教授)

司会:小嶋智(日本学術会議連携会員 岐阜大学工学部教授)

13:40-14:00 Society5.0と「可視化情報」—科学技術からの貢献—

高橋桂子(日本学術会議第三部会員 海洋研究開発機構地球情報基盤センター長)

14:00 -14:20 地理情報と空間リテラシー

石川徹(日本学術会議連携会員 東京大学大学院情報学環教授)

14:20-14:40 オープンサイエンスの目指すグローバルなデータ利用ビジョン

村山泰啓(日本学術会議連携会員 情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット
戦略的プログラムオフィス研究統括)

14:40-15:00 ビッグデータを用いた気候変動リスクへの対応

山形与志樹(日本学術会議連携会員 国立環境研究所・地球環境研究センター
主席研究員)

15:00-15:20 ユビキタスGISと防災教育

伊藤悟(日本学術会議連携会員 金沢大学人間社会研究域教授)

15:20-15:40 協働によるジオデザインのフレームワーク

矢野桂司(日本学術会議連携会員 立命館大学文学部教授)

15:40-16:00 都市の健康を測る:空間情報科学からのアプローチ

山田育穂(日本学術会議連携会員 中央大学理工学部教授)

16:00-16:20 未来へのランドデザイン—システム知・目標知・転換知の構築へ向けた
可視化

谷口真人(日本学術会議連携会員 総合地球環境学研究所副所長)

16:20-16:50 総合討論

司会 村山祐司(日本学術会議連携会員 筑波大学生命環境系教授)

16:50-17:00 閉会の挨拶

平田直(日本学術会議連携会員 東京大学地震研究所教授)

問い合わせ先:春山成子(三重大大学生物資源学部, TEL: 059-231-9576)

グローバル時代のデータ利用と可視化

